

東京の森を歩く その 2

東京農工大学 名誉教授
福嶋 司

【講師プロフィール】

名前: 福嶋 司 (ふくしま つかさ)

履歴

昭和 22 年 大分県生まれ
昭和 47 年 広島大学大学院理学研究科博士課程植物学専攻入学
昭和 52 年 理学博士取得 (広島大学)
昭和 52 年 千葉大学園芸学部 助手
昭和 58 年 東京農工大学農学部 助教授
昭和 60 年～61 年 カナダ オンタリオ州 マクマスター大学招聘研究員
平成 7 年 東京農工大学農学部 教授
平成 24 年 東京農工大学定年退職 名誉教授

受賞歴

- ・植生学会賞 (平成 19 年)
- ・東京都文化功労者表彰 (令和元年)

東京の森を歩く その2 武蔵野台地中部の森

東京農工大学名誉教授 福嶋 司

明治神宮の森

- ・明治天皇の崩御(1912.7.30) 大正4年(1915)着工、大正10年(1921)完成
- ・候補地の選定…森が存在、荘厳な森を創ることが可能な場所 → 代々木御料地
- ・「永遠の杜」の造成のために、造成前の土地と樹木の現状分析、境内の周辺環境の分析
- ・目標とする樹林の決定…大隈重信（総理大臣）と本多静六の論争の結果、気候、風土にあった常緑広葉樹の森の造成を決定。神社の林苑であるから郷土樹種を利用、自然の遷移を前提に50年、100年後を想定。
- ・献木…大正10年8月までに95558本を搬入、植栽。
- ・造成後約100年後の今は常緑樹主体の「緑の島」が完成。その間、マツ枯れ発生し、遷移の進行加速。また、上層木の繁茂により後継樹種を含む林床の未発達も問題

自然教育園の森

- ・総面積20ha、海拔16-40mの起伏のある地形
- ・白銀長者住居→松平讃岐の守の下屋敷→海軍の火薬庫→白金御料地→文部省移管
- ・昭和24年(1949)「史跡名勝天然記念物」指定。11月3日国立自然教育園として公開。
- ・土塁の上に生育するスダジイ林、造成後500年で、階層構造の発達。
- ・種子植物718種、シダ植物47種、蘚苔類62種が生育。
- ・自然の力による「植生遷移の進行」…遷移初期種→落葉広葉樹→常緑広葉樹への変化

林試の森公園の森

- ・森林に関する国立の研究所であった農林水産省付属の「林業試験場」（現 森林総合研究所）の跡地に平成4年(1992)6月に開園した東京都立公園。
- ・公園は目黒川の支流である羅漢寺川によって削り残された総面積12.7haの細長い形状。中央部の南北に延びる谷により二つの小山に分かれている。
- ・明治8年から9年にかけて輸入されたプラタナスの2種、ネグンドカエデ、オウシュウトネリコ、シンジュなども北区西ヶ原からここに移された。
- ・広場「森の広場」の近くのサービスセンターの西には津田塾大学創始者の津田梅子の父が植えたともいわれる2列のプラタナスの並木がある。
- ・目黒不動は林試の森公園の北の門を出て、歩いて10分。山門と本堂は林試の森公園と同じ台地が羅漢寺川によって削られた低地にある。
- ・龍泉寺の本堂の北には「甘藷の先生」こと、青木昆陽の墓がある。

石神井公園の森

- ・石神井公園は石神井川の両脇に広がり、三宝池と石神井池とからなる公園で、三宝寺池は石神井川の水源の一つ。面積は18ha、樹木は約7500本が生育する。昭和34年(1959)に都立公園に指定。

- ・公園は台地から斜面にかけては雑木林が残り、池に接する平坦地にはケヤキや外来樹種のメタセコイア、ラクウショウなどの針葉樹、湖にはハンノキ、ヨシ、ヒメガマ、マコモなどが生育。湿地地帯は昭和 10 年に国指定の天然記念物に指定された。
- ・厳島神社はこの池の一つの景勝地である。池の中に突き出した部分に社があり、ハンノキも多い。
- ・池の南の台地に鎌倉時代末期、石神井郡一帯を領有した豊島泰経が築いたとされる「石神井城跡」がある。文明 9 年（1499）に太田道灌との戦で落城。

井の頭公園の森

- ・この一帯は徳川歴代将軍の鷹場。御殿山の地名は、家光が鷹狩りに訪れた際の休息のために頭池を見渡す場所に御殿を造営したことに由来。井の頭の名称は家光によって名づけられたものと伝えられる。
- ・公園は東に張り出した井の頭池（約 43,000m²）とその周辺、中央部の雑木林の多い御殿山地区、運動設備のある南側の地域に大きく分かれる。
- ・井の頭池西端の島に現存する井の頭弁財天は、平安時代中期に最澄作の弁財天女像を安置するためこの地に建てた堂とされる。
- ・井の頭池は湧水口が七か所もあったことから七井の池とも呼ばれた。神田川の水源地で、明治 31 年に「改良水道」ができるまでは神田上水として人々の飲み水。
- ・井の頭池で 2017 年の開園百周年に向けて、水をいったん抜いて池底を天日干しし、水質浄化と外来魚の駆除をする「かいぼり」の水抜き作業を実施。

神代植物公園の森

- ・公園一帯は昭和 16 年(1941)に「東京緑地計画」の環状緑地帯指定地。
- ・公園は標高 50m 前後の武蔵野台地上の縁にあり、総面積は 25.57ha で、ツツジ園、針葉樹園、ダリア園、バラ園、ハギ園、シャクナゲ園、アジサイ園、サクラ園、ハナミズキ園、カエデ園などがあり、地域区分がなされている。「大温室」、「植物多様性センター」などの施設もある。
- ・バラ園では 1 ha の中に約 250 品種、5300 本のバラが植えられている。
- ・サクラ園には平成 3 年に命名された「神代曙」がある。ソメイヨシノよりも赤みが強い。
- ・バラ園の東には広い面積に「雑木林」が広がっている。かつてはスギ、アカマツが多かったが、慶応元年（1868）に深大寺の本堂の火災後、その再建のため切り出されたという。
- ・国分寺崖線の途中には、深大寺があり、門前を中心に 20 数軒の蕎麦屋が軒を連ねる。周辺にソバを栽培してはいなかったが、国分寺崖線から湧き出す湧水が大変冷たく、ソバを引き締め、よい味にしたことから有名になった。
- ・植物園の南には中世城郭の遺構が残る深大寺城跡がある。深大寺城は 16 世紀前半、扇谷上杉氏がここに築いた城。平成 19 年に国の史跡に指定。
- ・城跡の北側には長い低地が広がっており、水生植物園になっている。ヨシ草原、花菖蒲園、ハンゲシショウや絶滅の危機が叫ばれているアサザなどの植物を観察ができる。